令和8年度
佐賀市民意向調査

（これからの“まちづくり”に関する市民意向調査）

－概要版－

佐賀市では、『佐賀らしさでみんなが上を向くまち』という将来像を定め、この将来像を実現するために『第3次佐賀市総合計画』に基づいたまちづくりを進めているところです。

このアンケート調査は、第3次総合計画の実施計画である「佐賀市未来共創プラン」を構成する27の施策を中心に質問を設定し、市民が「佐賀市の現状をどのように感じているか」、そして「これからの“まちづくり”についてどのような意見を持っているか」などを把握し、市民の声を市政に反映させることを目的として、毎年1回実施しています。

調査の概要

調査地域	佐賀市全域
調査対象	市内に居住する18歳以上
対象者数	2,500人
有効回答数	765サンプル（回収率30.6%）、補正後189,823サンプル※ ※調査結果は、回答数の構成比が調査対象の人口構成比と同じになるように設定した補正係数を乗じた値を用いて作成されています。
抽出方法	住民基本台帳から年齢・性別・地域別に無作為抽出
調査方法	郵送方式およびWEB方式を併用した調査
調査時期	令和8年5月13日（水）～5月31日（日）
調査項目	【問1】暮らしやすさの実感 【問2】佐賀市への愛着 【問3】今後の居住予定 【問4】「幸福感」の現状 【問5】まちづくりに対する「意識」 【問6】まちづくりに対する「取り組み」 【問7】家事・育児・介護にかける時間 【問8】施策の取組に対する満足度 【問9】市政に対する自由意見 【問10】個人属性

佐賀市
SAGA

1. 佐賀市民の今

暮らしやすさ

75.0%



設問：あなたは、佐賀市での生活を「暮らしやすい」と感じていますか。

暮らしやすいと感じる理由

1位　自然環境や住環境がいい
2位　生活コストが安い
3位　近所づきあいや人間関係が豊かである

暮らしにくいと感じる理由

1位　公共交通機関の利便性が低い
2位　買物、飲食などの日常生活が不便
3位　生活コストがかかる

愛着度

88.6%



設問：あなたは、佐賀市に愛着を持っていますか。

愛着を感じる点

1位　家族・友人がいる
2位　生まれ故郷である
3位　自然環境、気候などの風土
4位　農作物が多様で、食事がおいしい
5位　思い出がある（多い）

定住意向

86.1%



設問：あなたは、今後も佐賀市に住み続けたいと思いますか。

住み続けたいと思う理由

1位　景観・まちなみに魅力がある
2位　通勤・通学が便利
3位　医療環境が充実している

市外に引っ越したいと思う理由

1位　買い物環境が充実していない
2位　通勤・通学が不便
3位　希望する仕事や魅力的な仕事がない

POINT



- 暮らしやすさは75.0%で、自然環境や生活コストの低さが評価されている一方、公共交通や買い物環境の利便性に課題がみられます。
- 愛着度は88.6%と高く、家族・友人の存在や豊かな自然環境、食や歴史・文化など、地域とのつながりが愛着を感じる点として挙げられています。
- 定住意向は86.1%で、住み続けたい理由では「景観・まちなみ」、「通勤・通学」、「医療環境」が上位となっています。

2. 佐賀市民の幸福感

幸福感

6.77点

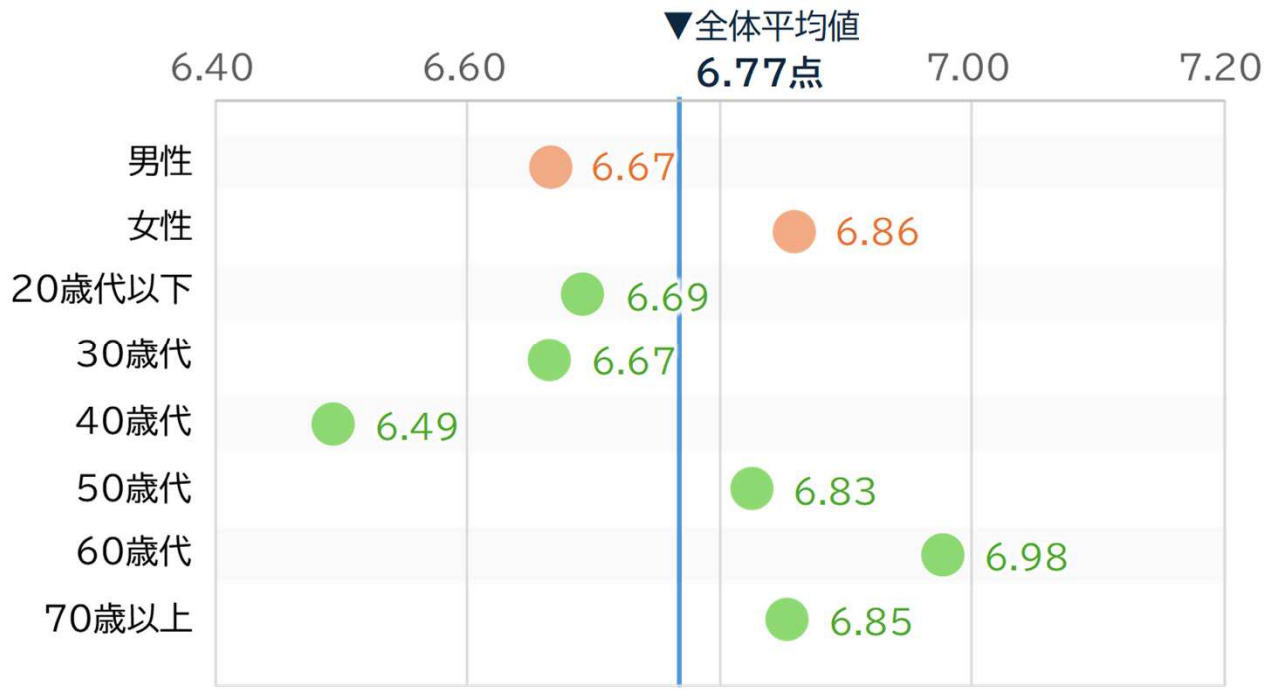
設問：現在、あなたはどの程度幸せですか。



幸福感を感じるうえで重要なもの

1位　健康である
2位　家族との関係が良好
3位　経済的な余裕がある
4位　頼れる人や友人がいる
5位　仕事が充実している

＜幸福感の性別・年代別平均値＞

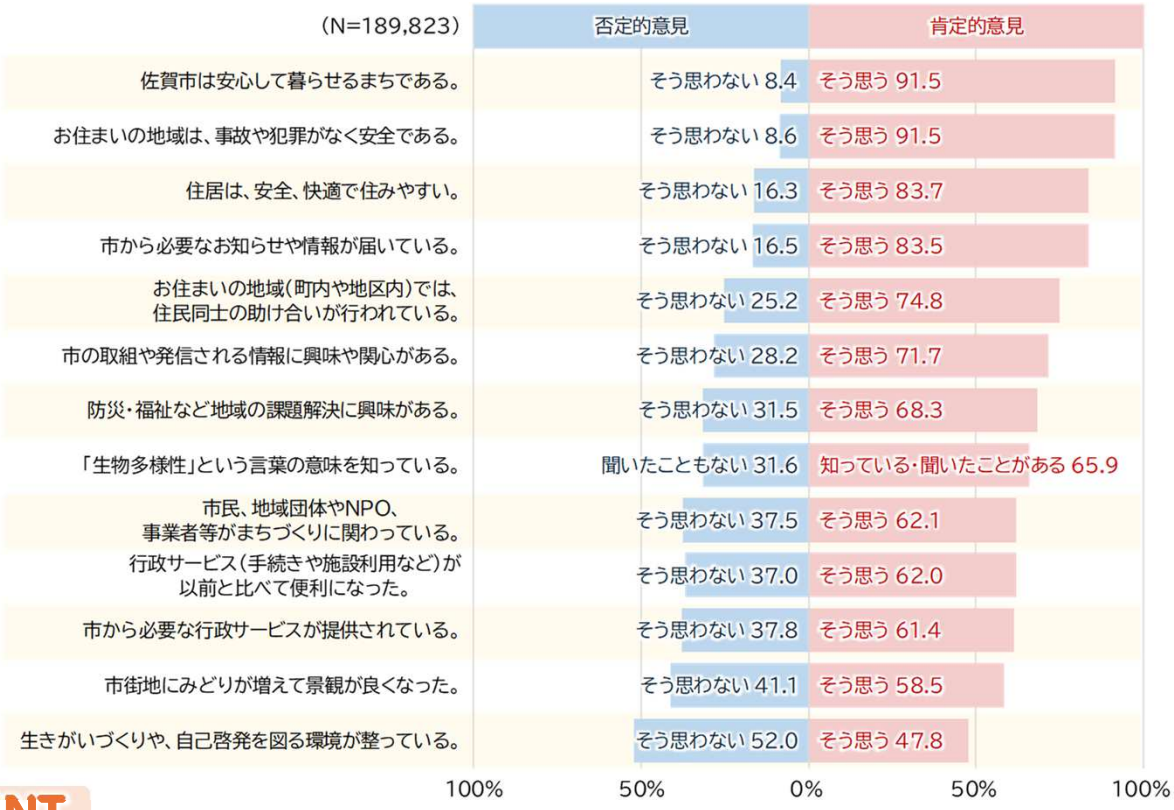


POINT

- 幸福感の全体平均は6.77点で、女性（6.86点）が男性（6.67点）をやや上回りました。
- 年代別では、40歳代が6.49点で最も低く、唯一6点台前半となりました。一方、60歳代は6.98点で最も高い結果となっています。
- 40歳代以下は全体平均を下回る一方、50歳代以上は全体平均を上回っており、幸福感が高い傾向がみられます。

3. 生活の中の「意識」

＜生活の中の「意識」構成比＞

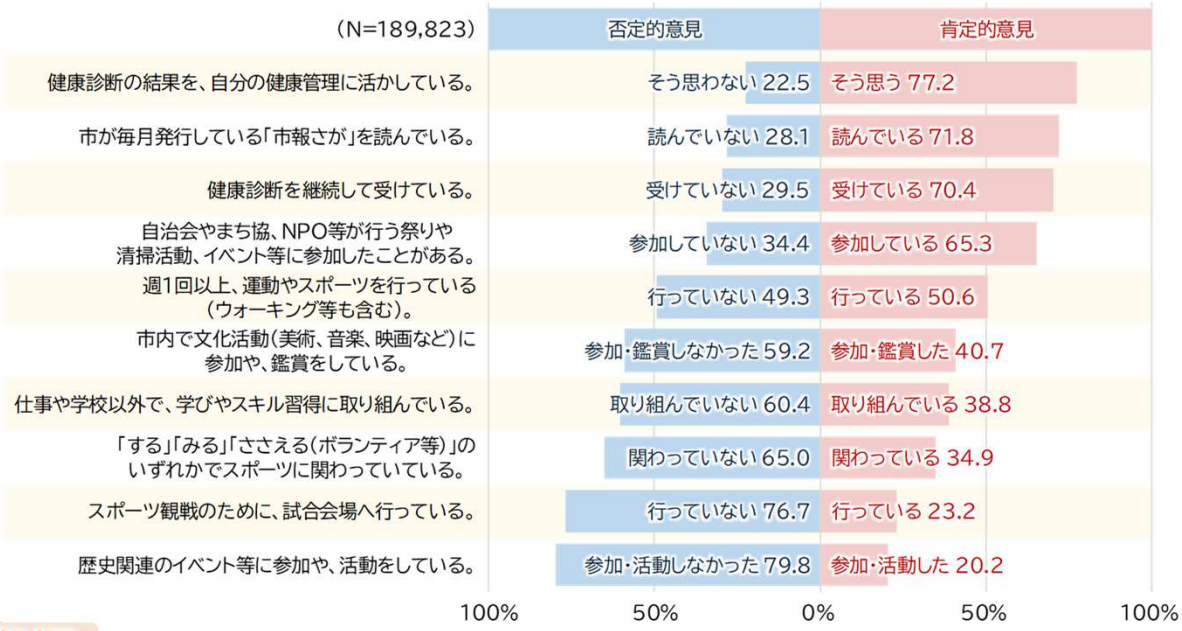


POINT

- 市民の意識は、暮らしや安全に関する項目で高い傾向がみられる一方、生きがいづくりや自己啓発、景観形成に関する項目では相対的に低い傾向がみられます。

4. 日常生活の「取組」

＜日常生活の「取組」構成比＞



POINT

- 健康診断の受診や健康管理、市報さがの閲読など日常的な取組は定着している一方で、スポーツ観戦や歴史・文化活動への参加、学びやスキル習得に取り組む人の割合は相対的に低くなっています。

5. 施策の優先性

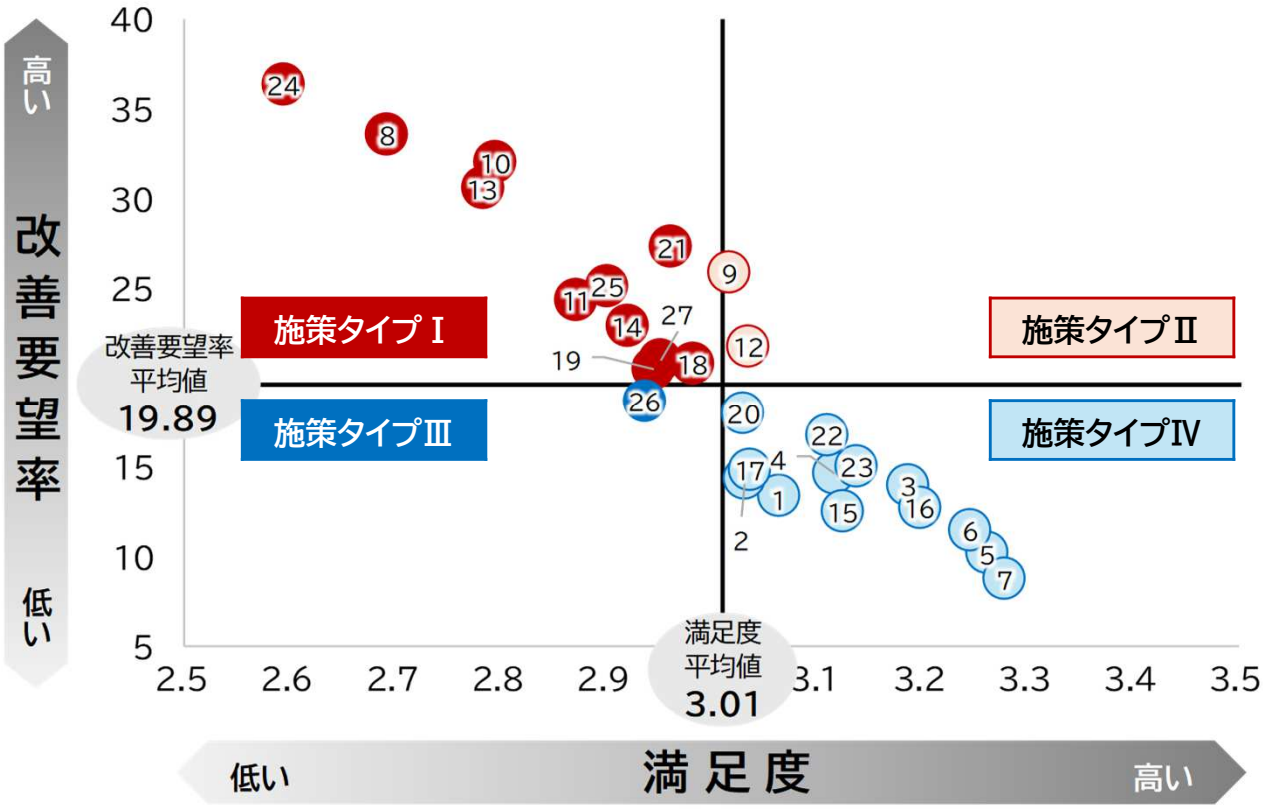
＜ポートフォリオ＞

施策タイプⅠ 重点改善項目 満足度【低】 改善要望率【高】

[8]まちの稼ぐ力を高める経済の推進
[10]まちなかの魅力向上
[11]稼げる農林水産業
[13]未来を担う人材の育成
[14]脱炭素が当たり前の社会の実現
[18]自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現
[19]多文化共生による暮らしやすさの推進
[21]水害に備えたまちづくり
[24]多様な移動ニーズに応える地域公共交通
[25]暮らしを支える都市基盤の整備
[27]行政運営のDX推進

施策タイプⅡ 改善検討項目 満足度【高】 改善要望率【高】

[9]佐賀らしい観光の提供
[12]地場産品のブランド力向上と販路拡大



施策タイプⅢ 検討見直項目 満足度【低】 改善要望率【低】

[26]インナー・アウタープロモーションの推進

施策タイプⅣ 強み維持項目 満足度【高】 改善要望率【低】

[1]切れ目のない子育て支援の充実
[2]自ら考え、行動し、生きる力を身につける教育の推進
[3]いつでもどこでも学ぶことができるまち
[4]地域共生社会の実現
[5]健康を意識するきっかけづくり
[6]する・みる・ささえるスポーツの推進
[7]文化を身近に感じふれあえるまち
[15]「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」へ
[16]豊かな自然と心地よい暮らしの調和
[17]みんなが主役のまちづくり
[20]最新技術を活用した総合的な防災・危機管理体制の充実
[22]地域ぐるみによる生活者の安全確保
[23]魅力ある居住環境やまちのみどりと美しい景観の創出

＜ポートフォリオ分析による施策項目の優先性＞

市の取組	施策の満足度		施策タイプ
	得点	順位	
[1]切れ目のない子育て支援の充実	3.06	10	Ⅳ
[2]自ら考え、行動し、生きる力を身につける教育の推進	3.03	13	Ⅳ
[3]いつでもどこでも学ぶことができるまち	3.19	5	Ⅳ
[4]地域共生社会の実現	3.12	8	Ⅳ
[5]健康を意識するきっかけづくり	3.26	2	Ⅳ
[6]する･みる･ささえるスポーツの推進	3.25	3	Ⅳ
[7]文化を身近に感じふれあえるまち	3.28	1	Ⅳ
[8]まちの稼ぐ力を高める経済の推進	2.69	26	Ⅰ
[9]佐賀らしい観光の提供	3.02	15	Ⅱ
[10]まちなかの魅力向上	2.79	24	Ⅰ
[11]稼げる農林水産業	2.87	23	Ⅰ
[12]地場産品のブランド力向上と販路拡大	3.04	12	Ⅱ
[13]未来を担う人材の育成	2.78	25	Ⅰ
[14]脱炭素が当たり前の社会の実現	2.92	21	Ⅰ
[15]「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」へ	3.12	7	Ⅳ
[16]豊かな自然と心地よい暮らしの調和	3.20	4	Ⅳ
[17]みんなが主役のまちづくり	3.04	11	Ⅳ
[18]自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現	2.98	16	Ⅰ
[19]多文化共生による暮らしやすさの推進	2.94	19	Ⅰ
[20]最新技術を活用した総合的な防災･危機管理体制の充実	3.03	14	Ⅳ
[21]水害に備えたまちづくり	2.96	17	Ⅰ
[22]地域ぐるみによる生活者の安全確保	3.11	9	Ⅳ
[23]魅力ある居住環境やまちのみどりと美しい景観の創出	3.14	6	Ⅳ
[24]多様な移動ニーズに応える地域公共交通	2.59	27	Ⅰ
[25]暮らしを支える都市基盤の整備	2.90	22	Ⅰ
[26]インナー･アウタープロモーションの推進	2.94	20	Ⅲ
[27]行政運営のDX推進	2.95	18	Ⅰ
平均値	**3.01**		

※順位付けは端数処理を行っていない得点で算出している
※満足度：　平均値以上　　平均値未満

タイプ	分類
施策タイプⅠ	重点改善項目（満足度が低く、改善要望率が高い項目）
施策タイプⅡ	改善検討項目（満足度･改善要望率ともに高い項目）
施策タイプⅢ	検討見直項目（満足度･改善要望率ともに低い項目）
施策タイプⅣ	強み維持項目（満足度が高く、改善要望率が低い項目）

POINT

- 「文化を身近に感じふれあえるまち」の施策は概ね高い評価を得ている一方、「多様な移動ニーズに応える地域公共交通」の満足度は低くなっています。

6. 施策項目の対策必要度

順位		1位	2位	3位	4位	5位
佐賀市全体		24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	10 まちなかの魅力向上	13 未来を担う人材の育成	21 水害に備えたまちづくり
性別	男性	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	13 未来を担う人材の育成	10 まちなかの魅力向上	21 水害に備えたまちづくり
	女性	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	10 まちなかの魅力向上	13 未来を担う人材の育成	9 佐賀らしい観光の提供
年齢別	20歳代以下	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	13 未来を担う人材の育成	21 水害に備えたまちづくり	18 自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現
	30歳代	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	1 切れ目のない子育て支援の充実	13 未来を担う人材の育成	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	18 自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現
	40歳代	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	25 暮らしを支える都市基盤の整備	21 水害に備えたまちづくり	10 まちなかの魅力向上
	50歳代	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	10 まちなかの魅力向上	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	21 水害に備えたまちづくり	13 未来を担う人材の育成
	60歳代	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	25 暮らしを支える都市基盤の整備	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	13 未来を担う人材の育成	10 まちなかの魅力向上
	70歳以上	24 多様な移動ニーズに応える地域公共交通	10 まちなかの魅力向上	8 まちの稼ぐ力を高める経済の推進	11 稼げる農林水産業	9 佐賀らしい観光の提供

●対策必要度の算出方法
対策必要度＝改善要望率÷満足度

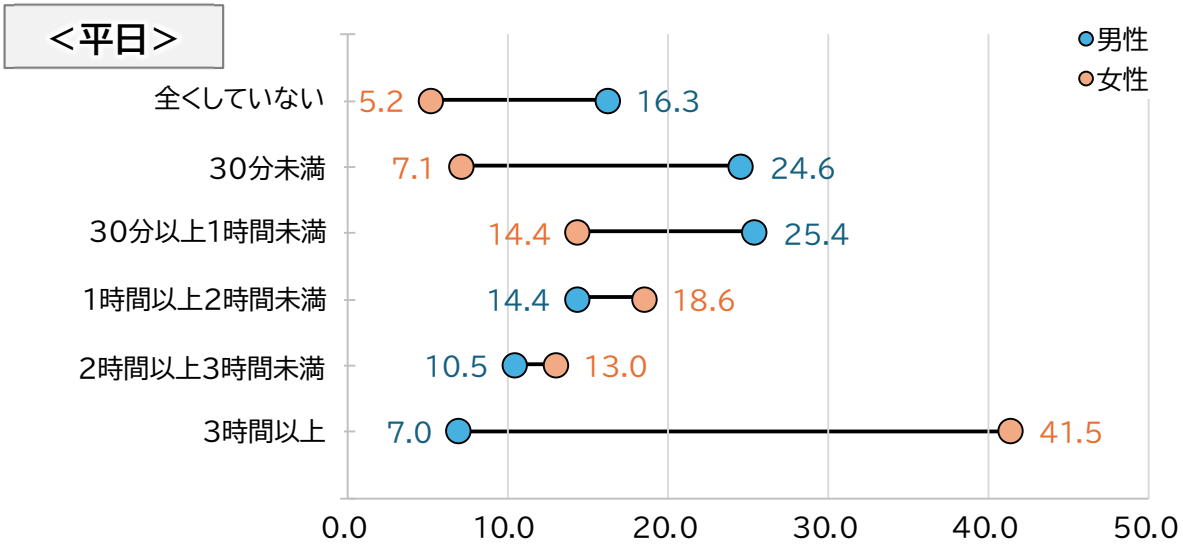
POINT

- 対策必要度では、「多様な移動ニーズに応える地域公共交通」が全体・男女別で最も高くなっています。
- 年代別では、50歳代で「まちの稼ぐ力を高める経済の推進」が最も重視されています。また、「未来を担う人材の育成」や「水害に備えたまちづくり」も複数の年代で上位に挙がっており、将来への投資と安全・安心へのニーズの高さがうかがえます。

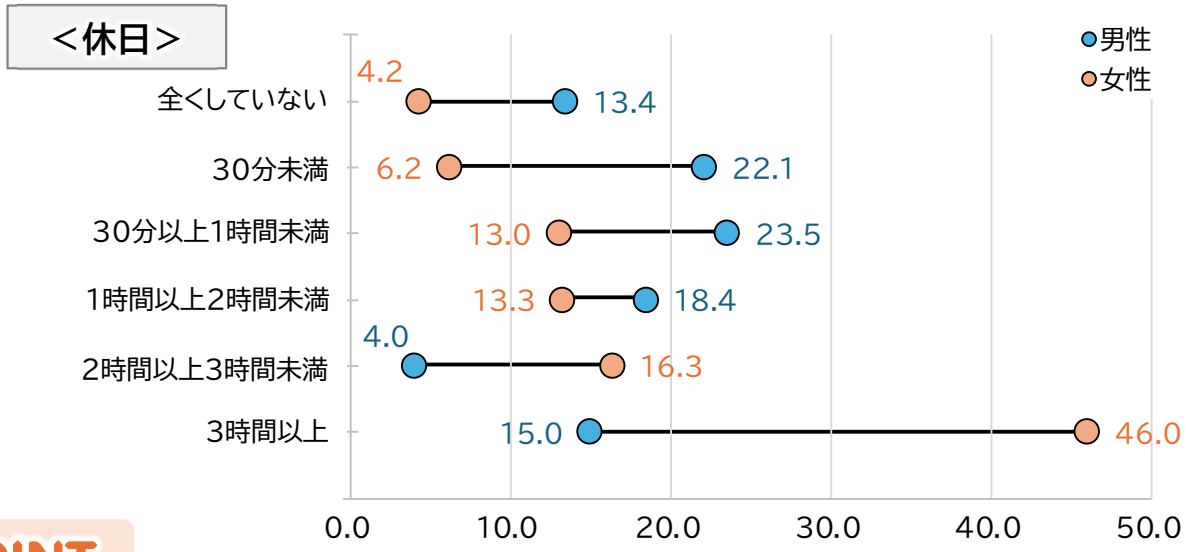
7. 家事・育児・介護時間

＜性別の平日・休日の1日にかける家事・育児・介護時間＞

＜平日＞



＜休日＞



POINT

- 平日は男性では「30分以上1時間未満」(25.4%)が最も多い一方、女性では「3時間以上」が4割を超えており、家事・育児・介護に費やす時間が女性に偏る傾向がみられます。
- 休日も同様に女性は「3時間以上」(46.0%)が最も多く、男性の15.0%を大きく上回っています。男性は「30分以上1時間未満」(23.5%)や「30分未満」(22.1%)の割合が高く、男女間で費やす時間に大きな差がみられます。

令和8年度佐賀市民意向調査
(これからの“まちづくり”に関する市民意向調査)
－概要版－

令和8年9月
発行:佐賀市　政策推進部　行政マネジメント課

〒840-8501　佐賀市栄町1番1号
TEL:0952-40-7029
FAX:0952-40-7323